

佳作

私が得た大切なもの

あおき
青木 優奈

川口市立芝東中学校二年（埼玉県）

先輩が引退して、暑い夏が来ました。剣道場内は熱気がこもり、四十度近くにもなり、練習はより厳しくなります。剣道部に入部して最初の夏は余りの過酷さに吐き気が止らなかつたこともありまして。しかし今年の夏は甘えてばかりいられません。私は、女子部長という立場になったのです。「率先して練習しよう。」というやる気に満ちていました。けれど一つ、苦手なものができてしまいました。それは太鼓の合図で振り返り、送り足が続けるというものでした。私はこの振り返りが遅く、怒られてばかりいました。でも自分ではどうすることもできず、ただ練習をこなすことが精一杯でした。

この夏一番の猛暑の日のことです。連日の厳しい稽古と、これまでにない程の暑さで私は自分の限界を感じていました。そのとき、男子部長が「ファイト!」と声をかけてくれたのです。その一言に勇気づけられ、私は自分の限界をどうにか越えることができました。今まで何回も聞き、何回も言ったその言葉が、初めて意味を持った言葉に聞こえました。それは応援する気持ちが自然に言葉となり、私に伝わったからだと思います。一緒に稽古をし、仲間として認めてもらったのだと思うと、うれしくてくすぐったい気持ちにな

りました。

稽古が終わった後、男子部長が

「左足の引き付けをもう少し早くするのと、出来るだけ余計な動きをしないように意識するだけでずい分変わると思うよ。この夏、やってみろよ。」

と言ってくれました。私は素直に感謝し、次の日からやってみることにしました。最初は意識することだけでも辛かったものの、少しずつ自分の思い通りに動けるようになってきました。今まで見えなかつた世界が急に開けていくようで、私は新たな剣道の面白さを発見しました。男子部長は、意識次第で出来なかつたことも出来る様になるということを、教えてくれたのです。

男子は経験が長く、強い人が集まっているので、結果を残すのは当然のように思っていました。それどころか、男子は簡単にそれを成しとげているように見えました。しかし、それは大きな間違いであることに気が付いたのです。

男子部長と相面の練習をしていた時のことです。

「数ミリでも曲がつていれば、真っ直ぐ打ってくる相手には負けちゃうんだ。」

と話していました。彼の打ちはそのままでも充分早いのに、それでもまだ勝つ為に地道に努力を続けているのです。私はその時、初めて男子部長を身近に感じました。彼の強さは元々備わっているものだけではなく、日頃から頂点を目指して研究し続ける努力に裏付けされたものなのです。そして部長ばかりでなく、男子皆が高い意識で努力していることに気付きました。やがてそれは部全体に広が

り、とても良い雰囲気になりました。男子は女子に丁寧にアドバイスをしてくれるようになり、女子も男子のアドバイスを素直に受けとめ、研究するようになったのです。

その結果私達女子も新人戦県大会でベスト8に入ることが出来ました。男子は努力が実を結び、優勝をつかみ取りました。男子の決勝の試合はそれぞれが仲間と、自分を信じて闘っていてとても良い試合でした。今でも男子部長の決めた面は私の心に鮮やかに残っています。

私達は剣道というスポーツを通じて強さの裏の努力を感じ、頂点を目指して努力し続けることの大切さを学び、他人を思いやり、感謝の心を持つという本当の強さを得ることができました。これから人も人として大切なことを学び続け、記録だけでなく、記憶に残る試合ができるよう頑張り続けていきたいと思っています。